

段ボール仕切りで感染防止 企業・学校から注文相次ぐ

2020/06/03 10:55 日本経済新聞電子版 908文字

段ボールの仕切りで感染防止——。梱包材として使われる段ボールが、新型コロナウイルスで一躍脚光を浴びている。軽くて安くて扱いやすいとあって、学校やオフィスで「3密」を軽減するため、メーカーに相談や注文が相次いでいる。コロナ第2波を防ぐ新たな生活様式の新風景のひとつになるか。

レンゴーは、学校の教室などで使える段ボール製の仕切りを開発・作製した。高さ140センチメートル、幅148センチメートルで、重さは860グラム。三つ折りにして立てて使う。オーダーメイドのため、価格は注文数などによって変わる。

開発のきっかけは、学校に牛乳を納入する松永牛乳（福島県南相馬市）の井上禄也社長から、学校再開を前に「安心して牛乳を飲む環境を」と相談があったこと。

学校側の要望も取り入れ、相手の顔が見えるよう正面と左右に大きな穴を開け、透明なフィルムを貼った。軽いので教室の掃除の際には子どもでも持ち運べる。

南相馬市は5月下旬から一部の中学校に導入。現在は感染拡大が収まっており、仕切りを長持ちさせる目的もあって、教室からはいったん撤去して第2波に備え保管中だ。

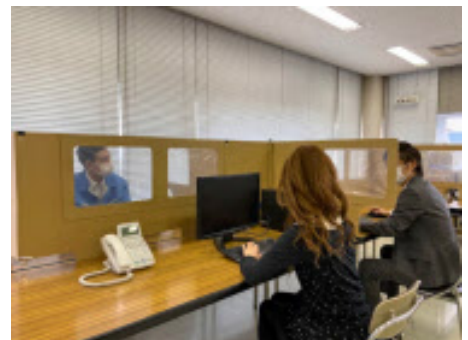
段ボールの製造を手掛ける企業の参入も相次ぐ。田中紙業（東京・葛飾）は、オフィス向けにパソコンのマウス操作がしやすいよう側面の下部をカット、3カ所に電源コード用の穴を設けた。10個3000円（税抜き、送料別）から。大手企業から1000人分の注文があったほか、学校からも引き合いがある。

出羽紙器製作所（東京・板橋）は4月にオフィス向けの販売を始めた。金融機関の窓口でも採用され、現在8千カ所13万セットが使われている。このほど学校用も販売、体格に応じて高さを5センチ刻みで調節できる。価格は学校用で1セット385円（送料別）。川端段ボール（福井県坂井市）の学校向け仕切りは、縦45センチ、横60センチ、高さ50センチとコンパクト。1枚132円（税抜き）と、「破格の安さ」（同業他社）だ。学習塾などから問い合わせが来ているという。

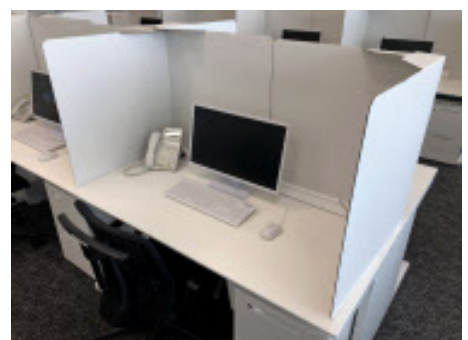
巣ごもり消費で宅配需要が増えている段ボール。災害時の避難所での簡易ベッドなど防災用品のほか、感染防止の一助として活躍の場が広がりそうだ。



段ボールの仕切りを設置した授業（5月下旬、福島県南相馬市の原町第一中学校）



田中紙業が開発したオフィス用段ボール製の仕切り



レンゴーの段ボール製オフィス向け仕切り

許諾番号30076757日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.